

たみたい旧ハイマンの工場を、いろんな手続をして管理人と清算人とか決めて処理して、裁判所から許可をもらって取り壊すなりして、じゃあ、そのかけた金額で土地を、例えば市のものになったとしても、とてもとても合わないわけです。これは税金でするわけですから、そういうこと考えると、なかなか厳しい状況ではないかなと思うんですが、平 進介議員からありましたように、今年度の計画改定の中において、関係団体との連携強化や、あるいは情報共有、相談体制の充実などを通じて、民間事業者さんが空き家対策にどうすれば参画できるのか、そういう環境づくりなどを模索しながら、じゃあ、これが駄目だと言って何もしなかったら、本当、地域が大変なわけでございますので、その辺のところを検討してまいりたいと思いますので、ぜひ引き続きいろんなご提言などいただければと思います。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 特に解体、ランクDの解体のお話です。米沢市辺りですと、新聞情報ですが、解体業の方が年に1棟とか、そういったところでご協力いただけるというお話などを聞きますと、中にそういったインセンティブ的なところあるのかどうかですが、その辺もちょっとご検討いただければありがたいなと思ったところでございます。よろしく願いいたします。

この空き家問題につきましては、単なる個人の財産管理の問題にとどまらず、その地域の安全、景観、さらには地域社会そのものの持続可能性に関わる大きな課題だと思っております。特に相続放棄案件については今後さらに増加していくことが予想されますし、従来の所有者責任のみでは解決が困難な、新たな局面に入っていると思っております。長井市として、その計画の改定作業に入られるということでございますので、全国に先駆けた実効性のある対策とし

て改定していただくようお願い申し上げながら、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時15分といたします。

午後 2時52分 休憩

午後 3時15分 再開

○内谷邦彦議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

渡部正之議員の質問

○内谷邦彦議長 順位5番、議席番号7番、渡部正之議員。

(7番渡部正之議員登壇)

○7番 渡部正之議員 清和長井の渡部正之です。すばらしいアヤメの花を前に一般質問をさせていただきます。

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。私からは、本市におけるつながりの拠点づくりについてと、これまでの市政運営の成果と評価について、今後の市政についての3点を一括質問にて質問させていただきますので、ご答弁のほどよろしくお願いいたします。

このたび、山形市に地域おこし協力隊を支援する新たな施設M・I・Oが整備されました。定額の月会費を支払うことで、隊員同士の交流や各種セミナーへの参加、コワーキングスペースの利用などが可能となり、現役隊員だけでなくOB、OG、企業、大学生など、多様な人々が交わる仕組みが用意されております。このよ

うな仕組みは、世代と分野、市民と専門人材をつなぐハブとして、大きな力を発揮し得るのではないかと考えます。具体的には市民や地域団体、事業者、協力隊員、移住希望者など、誰もが気軽に立ち寄り、情報やアイデアが自然と集まる機能、プロジェクトの立ち上げや協働を支援するコーディネート機能、学び合い、交流し、新しい挑戦を後押しするコミュニティ機能といった機能を併せ持つことで、つながりの拠点としての役割を果たすことができ、企業や地域ビジネスの創出にも寄与することが期待されます。

本市には、関係案内所S E N Nやコミュニティセンター、地域おこし協力隊の活動拠点など、既に多様な場や主体が存在しております。これら既存の施設やネットワークを有機的に組み合わせることで、世代と分野、市民と専門人材をつなぐつながりの拠点として機能させていくことが重要だと考えます。つながりの拠点の必要性については、これまでも一般質問で取り上げてきたところでありますが、改めて現状の認識と今後の方向性について伺います。

山形市の地域おこし協力隊支援拠点M・I・Oのような役割や機能を参考に、関係案内所S E N Nやコミュニティセンター、地域おこし協力隊の活動の場を活用しながら、つながりの拠点づくりに取り組むことが重要と考えますが、本市における現在の取組状況と課題をどのように認識しておられるのか、また、既存資源を生かしたつながりの拠点づくりについてのお考えを、地域づくり推進課長に伺います。

2点目の質問であります。これまでの市政運営の成果と評価について伺います。

市長は、平成18年の初当選から今日に至るまで、長井市政を長きにわたって牽引されてこられました。その間、全国的な人口減少と少子高齢化、地域経済の縮小、中心市街地の空洞化、行政経営の効率化という日本中の地方都市が直面する大きな波の中で、本市としてどうかじを

切るのかが常に問われてきたと受け止めております。そのような時代の変化に対応しながら課題を解決すべく、これまで多くの施策が実施されております。代表的な取組の一つとして、中心市街地の再生と活性化があります。本市では中心市街地の活性化に関する法律に基づき、第1期、第2期、そして現在の第3期長井市中心市街地活性化基本計画と段階的に取組を進めてまいりました。

第1期では「人・モノ・情報をト・メ・る」というテーマの下、観光や交流人口の拡大を図り、第2期では「時代（とき）・エリア・人をつなぐ」をテーマに、中心市街地を都市機能充実エリア、歴史文化活用エリア、集客交流促進エリアの3つに区分し、それぞれの特性を生かしたまちづくりを進めてきました。その成果として、旧長井小学校第一校舎などの施設整備により、市外からの来訪者や交流人口が増加し、イベントやマルシェなど、多様な市民活動がまちなかに生まれてきたと思います。

令和8年3月に内閣総理大臣の認定を受けた第3期計画では「「未来」を「つくる」～新たな人の流れと交流による賑わいの創出と持続可能なまち～」を目指す中心市街地の都市像とし、これまでの取組を踏まえつつ、さらなる魅力向上と回遊性の強化、官民連携による持続可能なまちづくりを進める方針が明確にされております。

また、スマートシティの推進については、国の地域再生計画の認定を受け、中心市街地活性化基本計画や立地適正化計画と連動させながら、あらゆる生活分野で未来技術を活用し、子育て世帯も高齢者もいつまでも便利に安心して暮らせるまちを目指すスマートシティの実現に取り組んできました。その一環としてNTT東日本との連携協定に基づき、地方都市型スマートシティの社会実装を掲げたスマートシティ長井の取組を進め、買物に不便を感じる方々の課題解

決を目的としたスマートストアを開設するなど、ICTを活用した生活利便性向上に具体的な一歩を踏み出しております。近年では、ドローンやデジタルツインを活用した地域防災力の強化も図り、最先端技術を用いた強靱かつ持続可能な地域防災の実現に向け、連携協定を締結するなど、防災・減災分野での新たな挑戦もされております。

一方で、人口減少そのものは依然として続いており、総人口の減少と高齢化率の上昇、若年層の流出、空き家や耕作放棄地の増加、地域コミュニティの維持、将来の担い手不足など、構造的な課題は多く、産業振興、雇用の場づくり、子育て支援や移住定住施策など、個別には評価できる取組が積み重ねられてきた一方で、ここで暮らし続けたい、働き続けたいと、若い世代が実感できる環境づくりという点は引き続きの課題であると感じます。このように、本市は多様な分野で先進的な取組を重ね、これまで成果を積み上げられておりますが、人口減少と地域経済縮小という構造的な課題はなお続き、市民生活の実感との間にギャップが残っているのも現実です。だからこそ、今、長期にわたり市政を担ってきたトップとして、自らの歩みをどう総括し、何を成果とし、何を課題として次の一歩につなげていくのかを明確にしていく必要があると考えます。

そこで伺います。これまでの市政運営において、どのような点に確かな成果があったと評価しているのか、また、課題はどのように捉えているのか、市長のお考えを伺います。

次に、今後の市政について伺います。

令和8年度施政方針は「みんながしあわせに暮らせる長井〜ずっと笑顔あふれるまち〜」、「「未来への挑戦」—安心と希望をつなぐまちへ—」という力強い言葉で、市民と共に歩むまちづくりの方向性を示すものとなっており、多岐にわたる事業を通じて、子供から高齢者まで

誰もが安心して暮らせる地域づくりや人口減少、物価高騰といった構造的な課題への対応など、中長期的な視点での取組が盛り込まれ、人口減少、少子高齢化の中でも地域の活力を維持し、誰一人取り残さないまちづくりを進めることが述べられております。また、デジタル化や防災・減災、子育て支援、産業振興など、多岐にわたる分野で挑戦という言葉が用いられております。こうした挑戦を実現していくためには、リーダーシップや責任ある政治判断が不可欠です。事業だけが走り出し、政治的な責任の所在が曖昧になることは避けなければなりません。

そこで伺います。11月に予定されている市長選挙について、現時点でどのように考えておられるのか、また、その是非の判断をどのような観点や基準に基づいて行うお考えなのか、伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部正之議員からは、大きく3点ほどご質問をいただきました。私からは、2問目のこれまでの市政運営の成果と評価、そして3点目の今後の支援についてということで、大変大きいご質問をいただきましたので、できるだけ簡潔にお答え申し上げたいと思います。

まず最初の、これまでの市政運営の成果と評価についてということで、渡部議員からは、自らの歩みをどう総括するのかと、成果は、そして課題は何だったのかということを明確にしていくことが重要ではないかというご質問、ご提言でございます。

私は、市長選が20年前の平成18年だったわけですが、これはたまたま市長にということで最初から考えていたわけではございません。私は、20代に約11年、32まででしょうかね、市の職員として働かせていただいて、そのときに、私の同期は今も議員で活躍されていますけれども、そういった優秀な職員が多いんだけど、

なかなか地方政治の方が少し頑張っていたかなくてはいけないのではないかとということで、私はそちらのほうに行こうと。ですから、最初から市長になるとか県議になるとかということではなくて、まずは身近な市民の暮らしをどういうふうに改善できるか。そのための提言などをするつもりで考えたところでございまして、そして東京のほうでたまたまいろいろ引っ張ってくださる方がいて、コンサルの会社、それから出版社に8年半ぐらいお世話になって、そして子供の進学の問題もあって戻ってまいりましてから、地元の民間企業にお世話になって、そして機を見て市会議員のほうに出させていただきました。

以降8年、満期を待たずにして市長選に出馬させてもらったんですけども、そのときの思いというのは、前にも言ったことあるかもしれませんが、私、議員をさせていただいた2期目の平成16年、17年、18年ぐらいは実は平成の合併での議論があったんですね。それぞれ西置賜の白鷹、飯豊、小国さんはもちろんですが、それぞれの市、町で、東南も今後どうするかという意見交換をしました。

その際に、忘れもしないのですが、西置賜の皆様と意見交換をしたときに、言われたことは長井なんていうまちは将来はないまちだと、我々が一緒に長井と合併しても何のメリットもないと、むしろ借金を背負わせるのではないかと。したがって、私たちは長井とは合併しないというのを、3町の町会議員の皆さんの大部分がおっしゃっていました。一人一人確認したわけではないのですが、厳しいことも言われました。ある議員からは、自分の孫と、ちょっと長井に買物行くから行かないかと、何か欲しいものを買ってやるぞと言ったんだけど、長井だったら行かないと。あんなとこさ行ったって何にもなんねえということを、孫に言われた。そういうまちだぞと、長井は。何を偉そうなこと

言っているんだと言われました。

私は、当時から市長に出ようなんて思っていなかったんですが、長井の場合は財政再建を果たした後にどうするかというしっかりとしたビジョンが必要だと考えて、様々な勉強をしておりました。その中で国のほう、総務省とか国土交通省のほうはもう既に平成14、15年ぐらいには、これからは人口減少の局面に入るぞ、恐らく2010年あたりからそういう局面に入るんだと。したがって、これからは郊外に広がるのではなくて、コンパクトシティ・プラス・ネットワーク、小さな拠点という考え方で、いかに公共交通を充実させるか。これが地方における、コンパクトな市を目指すところのビジョンだろうと私は思いました。

その後、たまたま現職の市長がもう2期で出ないということで、新人による4人で戦ったときに私が掲げた施策というのは、ほかの3人と違っていました。それはコンパクトシティ・プラス・ネットワーク、小さな拠点、これを私はまずは財政再建が明けた後のビジョンにしたいと。これからは人口減るんだと、そのために何をするかということを考えたときに、特に若い人たちが長井にとどまる、あるいは長井に戻ってくるといったときに、働く場はもちろんなんですが、何といっても中心市街地がある程度、商業機能、飲食機能あるいは様々な遊べる機能、生活を楽しむ機能がないと駄目だということから、そういったことなどを公約に、まずは財政再建をしながら、そんなことやっていこうということで、幸いにも自分は当選させてもらったわけですけども、それ以降20年、市長の職を担わせていただきました。

今まで、これからの成果等々については申し上げますが、自分一人ですることは限られておりまして、歴代の副市長、教育長やら幹部の職員のみならず、一職員、今の会計年度任用職員に至るまで、不満を持っている人はもちろん

たくさんいらっしゃると思いますけども、曲がりなりにも私市長がやることについては、みんな協力してくれて、今の状況にあると思っています。

今の状況については、先ほど申し上げましたように人口減少ということで、じゃあ、何から進めていくかということなんですが、ちょっと資料としては、皆様にはお示しできないんですが、実はこの間、5月の下旬に、東京の成城大学の社会イノベーション学部のほうに講義してくれてということで、1こまさせていただきました。去年も行ったんですが、そのときにも、今年はちょっと具体的に示したんですが、実は長井市のこれからの行政運営にはしっかりしたビジョンが必要だと。そのためには、昔、商工会議所の竹田会頭などがおっしゃっていた、地域経営という考え方を、我々行政運営にもそういう考え方を取り入れなくてはいけない。要するに地域経営は何かというと、地域の資源を生かす。特有な資源、いろいろあるわけですね。それと我々行政だけではなくて、民間、いろんな公的団体、市民、地域の皆様と、一緒の方向を向いて、同じ方向でまちづくりをするという、そういう視点が必要だということで、自分も市長に就任させてもらって、幹部職員と話しするときに、市長、それ示せと、市長の言っていることが私たちは分からないと、ずばり言われました。なので、こうこうこうだよと。

そのときに、私は、職員の時代に実は農林課だったんですね、長く、農林課8年。あと商工観光課、あと地場産センター、タスのほうに派遣で3年いたんですが、特に農林課にいたとき、今の農林課の業務と違って、かなり各農家とか、あるいは構造改善事業とか、そういったことを任されたので、あとは制度資金の担当などをずっとさせてもらったんですが、それぞれの地域に赴いて出て行って、その地域の代表の農家の皆さんと膝を突き合わせながら、いろんな

会議、協議したり、計画づくりしたり、あと構造改善の事業などを聞き入れて、それを、いろんな事業を一緒にやったと。そのとき思ったのは実に6地区というのは、中央地区はあまり農家、農業は盛んではないわけですが、見事に違うんですよ、地域の人々の考え方、特徴といいますかね、資源。そういったことをこれからも生かすべきだということで、実は長井市の経営資源を分析し、その課題は何だということ、これ1点目。

あと、より詳細に経営資源を分析しながら、長井市の経営戦略を構築しなくてはいけないのではないかと。それは市民、企業、団体など、市内の多様な主体と我々行政が一緒になって、連携、協調、そして当時の協働ですね。中長期の視点から、長井市の地域未来ビジョン、まちづくりビジョンをつくらなくてはいけないのではないかと。それがいわゆるコンパクトシティで、これからは当面行くべきだと。それから小さな拠点を、その代わり6地区にきちんとつくる。そしてまた、公共交通網をしっかりとつくっていくということで考えたところです。

そういったことで各6地域のいろんな資源を生かしながら、じゃあ、今後どうするかといったときに、人口減少社会になるわけですから、そのときにやっても持続可能な長井市の未来ビジョンをつくろうということで、まず私は、市長に就任させてもらった1期目は、財政再建のお願いを各地区、集落ごと、あるいは大字ごとにお願ひして集まっていたいて、説明をして、そしていろんな意見を聞いて、またお願ひしてという繰り返しを約4年間、同じことやってきたわけですが、そのときにまずは財政再建を再建先決するんだけど、その後どうするかということ、今のうち手を打っておこうということで様々な取組をしました。

大きく3点で、まずは何といっても長井はものづくりのまちですから、製造業と農業をどう

いうふうにしてもう一回、企業誘致とか頼らずに、今ある能力でさらに事業を拡大、経営資源を活用して雇用が生まれるような、そういった新たな部分を、我々行政も商工会議所と一緒に協力しなくてはいけない。あるいは農協はもう合併しましたが、農協さんとも協力しながら農業の振興を図っていかなくてはならないとか、そういったことをしながら、あともう一つは、議員からもあったように中心市街地活性化計画を立てよう。ただ、こちらについては残念ながら職員の抵抗に遭いまして、何回言っても、そんなものつくっても意味ない、何で市長、つくりたいんだ、こうこうこうだ、それは違うのではないかとかと言って、つくってもらえませんでした。ですから、そのときに課長を替えて、機構改革しました。商工観光課を商工振興課、観光振興課に分けて、観光振興課は実は今のやまがたアルカディア観光局の前身のやまがた長井観光局をつくりました。それは旅行会社をして、観光協会は、あくまでも長井の委託事業で、市民あるいは外からいらした方々に楽しんでもらうためのおもてなしの事業をやってもら。だけど、彼らはみんなボランティアでやっているんで、それは日中いろんなエージェントとか、どっかに行って営業なんてできないわけです。ですから、それは行政でやるべきだということで観光局をやったり、あとは中心市街地の活性化を、最後は国の総理大臣の認定をいただくわけですけども、それまでは相当苦労がありました。

そんなことをやって、あともう一方は実はコミセンをつくらなくてはいけないと思っていたんです。今の地区公民館では駄目だということで、たしか平成20年頃に当時の、今でも覚えていますけど、平館長にお願いして、各地区公民館の館長、主事の皆さんと何回か意見交換したんですね。そのときに出了たのは、不満だけです。委託料を上げてくれ、もっと人件費高くし

てくれ、いろんなものばかりでした、そのとおりだと。でも、これは今の長井市ではとてもできる状況ではないから、ただし、必ず国からいろんな支援を受けられるから、そのときに検討してくれということで、足かけ10年以上かかりましたけども、やっとコミセンになったんです。それが、昔言っていた市民との協働の拠点なんです。

これが人口減ってきますと、今、長井は実際1万世帯ないんですけども、そのうちの2,800世帯が65歳以上の高齢者だけの世帯なんです。ですから、もうだんだん自分たちで身の回りのこととか、特に雪なんて片づけられないんです。ですから、そういうふうになると、買物も大変になる。車の免許も返納なんていったら本当大変です。そういったことを行政が全てやるの難しいだろうということから、コミセンのほうにいろんな機能を持ってもらっていると。そのために、総務省の外郭団体の地域活性化センターに職員も2人派遣して勉強させてもらったし、あと同時に、今後の情報収集ということで国、県は引き続きです、国に大体6人の、各省庁に職員を派遣して、いろんな情報と同時に、仕事の仕方を学ばせてもらったということでございます。

話が長くなるんで、ちょっとまとめますが、そんな中で一つは地方創生が平成26年ぐらいから始まったんですね。そこで、そのときにアンケートを取りました、市民に。どんなまちを目指すべきか、長井のいいところは何か、欠点は何か。いいところが教育だったんです。悪いところは、働く場がない、買物するのも大変だみたいところがもう出ていました。そこで私どもは、そうか、教育かと。うちもICT教育が財政再建で非常に遅れていました。ほかの町、市が電子黒板どんどん導入するとき、うちは1台も導入できなかったと。これを何とかしなくてはいけないということで、力を入れるつもり

でいたんですが、それだったら一番の強みをもっとさらに生かそうと。もしかしたら、これが最終的には地方から、大都市に住んでいる若い人たちが地方に戻ってきて、あるいは若い夫婦で来ていただいて、それが決め手になるのではないかということで、そこに力を入れてきたんですね。

なお、福祉については、もう以前から非常に充実していたなと思ったんで、そこは本当に職員に任せて、自由にいろんなことをやっていただいて、充実していると思います。

そんなことでいろいろなことをやってきたんですが、ここの項でまとめますと、まず一つは、そういったことで財政再建を果たして、なおかつ、そのときの教訓があるわけですね。職員については残念ながら増やすことは無理だと、職員を増やさない。人件費をできるだけ抑えて、その分をいろんな事業に回さなくてはいけないということと、あと単独事業をしないと。いろんな国のハード、ソフトに全てなんですけど、いろんな交付金とか補助金あります。そういうものを厳選して、我々、お金がないわけですから、それでも最大の効果を上げられるような、そんな取組をしなくてはいけないということで、国のほうで幸いにも受け入れていただいたので、そして、それを続けてきた結果、まずはハードの部分でいえば、まず昭和の時代、約35年間で、今まで長井市になってからやってきた、例えば庁舎も含めて文化会館とか大変な病院とか、図書館とか、いろんなものをほとんど改築、大規模改修、場合によっては新築ということで、約200億円の事業をすることができました。ただ、それはそれで負債にまたなりましたけども、私が財政再建を2期、約8年かけて何とか皆様のお力で達成することができたんですが、300億円近く借金減らしましたんで、でも、新たに借金を200億円以上したということで、財政状況は決してよくないというのが今の総括です。

ただし、そのときにやったことで、次の世代にそういった過大なハードの責任はかなり回避できると。でも、一方で我々の世代は平成のときの、さっきもちょっとお話ししましたが、勝見議員のときお話ししましたが、本当に数えるほど、多分やった事業が30億円もやっていないですね、10年、15年ぐらいで、20年ぐらいで。ですから、それぐらい道路とかなんか除いて、そういったところを一気にできたと。ですから、これから人口減っていくと、なかなかそういう施設は造ることができません。したがって、以前、周りのまちではみんなぴかぴかだったんですが、ようやく我々もそれに追いつくことができたと思っています。

続いて、課題も含めてですが、今後の市政についてということで、ちょっと時間もありませんので、簡単に申し上げますと、課題として残ったのはまだ半ばということがあります。そして残念ながら移住・定住などの政策が充実できなかったんです。ただ、いろんなハードも含めて、ソフトはいろいろやりました。

あと安全・安心の部分では、例えばおらんだラジオとか、あれは各家庭に防災ラジオありますね。あれがあるのは多分うちと飯豊さんだけだと思いますよ、山形県では。あと屋外の拡声装置、両方あるのはうちだけだと思いますし、あとは様々な各コミセンとのネットワークもしっかりしています。さらには国、県のほうで、特に無堤地帯がいっぱいあったんです。それを全部、長井ダムが終わった後、国のほうで長井市が長井ダムに協力したという長い歴史があるので、それに報いるように、いろんなことをやってくさいました。ですから、安心・安全の部分では相当しっかりしている。さらにはDXでNTT東日本さんのほうにご協力いただいて、韓国の企業、NAVER Cloudと、あと韓国水資源公社とかNTTのイードローンとか5者でやったことによって、デジタルツインの

システムが恐らくあと1年後には完成すると思います。ですから長井の場合は、ほかのまちでは、全国でもうちだけだと思いますが、災害、特に大雨洪水に対しては大変な威力を発揮します。そういったことなどはいろいろやれたなど。あとDX、GXについては、こんな時代になるとは思っていませんでしたけど、あとAIも含めて、これからは大分ほかの市町村から比べれば効率的にできるのかなと思っております。

今後の展望としましては、ハードとソフト、ソフトのことはあんまり申し上げなかったんですが、ソフトもかなり充実することができたと思っていますが、中心市街地の活性化のところがここに来て課題なのが、「くるんと」とか市役所とか、あと文化会館、タスとか病院とか、大きなものはやったんですが、残念ながら中心市街地の活性化に民間の投資がほぼないと。これは本町の街路事業に続いて、駅前通りもしていただいたわけですね。この駅前通りの街路事業は最後のチャンスなので、街路事業をやって、民間の皆様と一緒に、まちなかにも飲食、商業機能、あとオフィス機能とか、あとは集合住宅をはじめとした様々な機能を持つことのチャンスだと、これは秋田県の横手市モデルにしていますけど、横手というのはうちよりは大きいんですが、そんなに大きくないです、五、六万ぐらいで。平成の合併でできた市ですね。そこで2期、3期と今やろうとしていますので、そういったところを手本に、我々も長井の市街地再開発によって中心市街地がより活性化しますと、教育が、子育てが優れていて、あと利便性が高く、そして何よりもソフトの部分ではダイバーシティ、インクルーシブ、人に優しい、そして障がい者も高齢者もみんな、お互い助け合って認め合って、いざというときは協力していこうという、そういう気風をつくっていますので、必ずやそういったところがプラスになるだろう。

あと課題といたしましては、一つは、まずは

人口減少の中で食い止める必要があるのは、高速交通網に取り残されると、そちらに移る傾向があるんですね。これはもうここ10年ぐらいの傾向を見ているとそうです。したがって、私どもも高速ネットワーク、今泉の産業団地の新山道だけでは、もうまちの中心部からいったら7キロメートル先ですから、そこまで行かないと高速に乗れないというのは、これ致命的だということで、国道348号線を基軸とした西廻り幹線道路、そしてあかしあ産業団地につながるんで、当然、長井からは長井北・南のインターで、まずは今泉のあちらの福島とか、あと山形に行く、あそこにつながる道路なんですが、行く行くは白鷹経由で348の、鉄砲町の途中の西工業団地のところでスマートインターできましたんで、白鷹通って、南陽、上山を通ってそこにつなぐ。そうすることによって、これは相当お金がかかりますが、高規格道路の斜め線を、これは県だけではなくて、国の主体で工事をしてもらう可能性が高いと。ですから、そうすると、長井から山形までは20分で行くと。仙台、山形、長井、新潟のちょうど最短距離に当たる。これは若い人にとっては非常に魅力ではないかということで考えています。

それからあとは、大きくは財政的なところで令和9年が財政の一番厳しいピークです。これを何とか乗り越えなくてははいけないと。そのためには、一般財源がまだまだ足りないので、ふるさと納税とかそういったところをもう一回、かつて18億円近くありましたので、今10億円切っけてしまっていますよね、それを何とか18億円あるいは20億円まで。そうしますと、半分は一般財源として使えるお金が現金で残りますので、そうすると、いろいろ細々とした、いろんな議員からの提案なんかにも対応できるのではないかと。いろんなこれからの借金を繰上償還とかして、できるだけ財政の健全化、見える形で進めていきたいと。

あと最後にやりたいのは、まずはこの間、かなり職員の皆様にも負担かけて地方創生を始め、地方創生は約12年間で今年、去年まで11年間で80億円弱、79億円ぐらいやってきました、ハード、ソフト含めて。これは山形県では断トツに多くて、東北でも多分ベストスリーに入るぐらいいろんなことやってきました。その負担たるや、職員には大変負担をかけたなという意味から、それをAIなどを使ってより省力化できて、そしてみんなが職場、この市役所で楽しくやりがいを持って働けるようにしたいと。そのことが、行く行くは長井市内の各企業さんと事業者さんにも長井市役所みたいなことでやっていこうよと。そして外の人にも高齢者にも障がい者にも優しく、外国人にも優しく、いざというときはお互い助け合える。そういう長井の、もともと長井で持っていた、そういう気風を市内全域に広げていくように頑張っていきたいと。

これを何とか実現するために、これからもう1期4年間チャレンジしたいと思っていますが、ただ、当然6期目ですから、対抗馬はもちろん出ると思っていますので、今いろんな後援者、今まで支援していただいた方々にお願いに回っておりまして、きちんとまだ体制が取れていないんですが、ぜひご理解をいただいて、もし仮に落選したとしても、自分としては中途半端なところで、家内からも子供たちからも今辞めたほうがいいぞと。今辞めれば、そこそこの批判で済むと。もう1期やったら、くそみそ言われるぞと言われました。かなり反対されました。でも、そうではないと。落ちたとしても、市民の皆さんに支援してもらって、あるいは議会からもいろんな厳しい議案などもご承認いただいたり、何よりも職員も頑張っついてきてくれたんで、何とか。それは市民の皆様の判断に委ねますが、これからはしっかりと自分の後始末をきちんとしながら、次の人にバトンタッチするようにもう1期目指したいと、そのように思

っておりますので、ぜひ議員の皆様にもご指導あるいはご助言などいただければ大変ありがたいと思います。

大変長くなって申し訳ありません。以上で私からの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 鈴木満成地域づくり推進課長。

○鈴木満成地域づくり推進課長 私からは、本市におけるつながりの拠点づくりについてとご質問いただいておりますので、お答えいたします。

地域や人をつなぐつながりの拠点の存在につきましては、地域づくりの推進において重要な役割を担うと考えております。渡部議員からもお話がありましたSENNにつきましては、地域内外の人とつながる縁結びのきっかけということでありまして、地域おこし協力隊を中心に交流などの活動を実施されております。令和5年度から6年度にかけまして、北海道から大学を休学して長井で地域おこし協力隊として活動していただきました元隊員がいらっしゃいますけれども、そちらの方に所属とか活動内容がそれぞれ異なる協力隊同士の連携の場をつくっていただきまして、情報交換とかそういうのをやっていただきました。そうやって各協力隊員の横のつながりを強化したりですとか、地元の住民の方や地元の高校生の居場所づくり、交流スペースとして開放していただいたり、あとは近隣の学生と地元の住民の方で、居場所づくりとか今後のまちづくりについて語り合うような場面を設定していただいたりと、そういったことをこのSENNでしていただいたところでございます。

その隊員につきましては、大学の休学終わったということで戻られたわけなんですけれども、戻った後も任期中に構築した地域とのつながりですとか、ほかの大学生とのネットワークを生かしまして、長井市の魅力発信を引き続き続けていただいたということがございます。それで、

そこから長井市にいろいろ問合せがあったりだとか、そういったこともございまして、元隊員ご自身も関係人口の一人ということで担っていたというのと同時に、人と人をつなぐ役割も引き続き担っていただいていると理解しております。

その後、このSENNにつきましては、別の協力隊員の方が引き継いだ形になっておりまして、その方も今回卒業したんですけれども、卒業した協力隊員の方は社団法人等を立ち上げてくままして、それで今、管理を引き続きさせていただいているということでございます。独自の自主企画ですとか協力隊へのアドバイス、経験を生かしたアドバイスということでしていただいているところでございます。

また、地域住民の暮らしとか活動の拠点でございまして各地区のコミュニティセンターもございまして、そちらにつきましては、各地域の事情とか特色を生かしたコミュニティ事業というのを推進していただいておりますし、地域おこし協力隊と連携した事業を、移住の体験ツアーですとか空き家のセミナー、そういったことをやっていただいて、関係人口を増やして、地域の課題解決とか活性化を図って、発展につながようという様々な取組が展開されているところでございます。

東京の大田区にあります東京事務所については、長井のPR活動ですとか交流事業の実施、あと移住を含む長井市へのお問合せの相談窓口といったような役割を担っていただいております。また、長井市を応援していただいているふるさと長井会の活動拠点ということにもなっておりますので、東京事務所につきましては、首都圏におけるつながりの拠点ということになっているということでございます。また、首都圏在住の20代、30代を中心に地方移住への関心が強いと、県内でも移住者が一番増えてきたということでもあります、そういった若者の希望が

あるということです。また、長井市の場合は県内大学生フィールドワークというのでも取り組んでおりますので、そういったところもつながりありますから、地域おこし協力隊の制度というものと絡めまして、これまで以上に東京事務所と情報を共有しながら連携を強めて、個々のつながりや関係人口の拡大に向けて取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

子供の頃から長井に愛着を持っていたという点につきましては、例えばけん玉につきまして、ツールとしてけん玉がありまして、そのけん玉を通じて交流できるけん玉ひろばSPIKEというのがあると思います。こういった子供がそういったところで親しみますと、長井に愛着をより持っていただけるのではないかなということで、貴重な資源であると考えております。市としても、こういったもの、人につかまして、コーディネイト役としてネットワークの集約ですとか機能の強化を図りまして、SENNのほか、今言ったSPIKEですとかコミュニティセンター、あとはタスのNagai Coworking Space +2の中にミーティングルームというのがありますので、そういったところを活用しながら、それぞれの場所の特徴とか役割に応じて柔軟に活用しながら、市内外、あと、いろんな世代の方々が交流できるような環境、機会をつくりたいと思っております。そして各フィールドにおいて活用いただいている団体や個人、それぞれの皆さんのよさや強みを生かした多方面のつながりの拠点づくりというものを進めてまいりたいと思います。

○内谷邦彦議長 7番、渡部正之議員。

○7番 渡部正之議員 それぞれにご答弁いただきました。

最初に、地域づくり推進課長にお伺いしたいと思っておりますけれども、様々なそういった既存施設の中で、つながりの拠点になるような取組がなされてきたということで安心したというところ

ろであります。それぞれのこれからの活動をより深めていくためにも、SENNでありましたり、コミュニティセンター、そういったところとの話合いの場のようなものも持っていくことがこれから重要ではないかと。先ほど東京では東京事務所がつながりの拠点に当たるということもありましたけれども、そういった関係者の話合いなども進めていただきたいなと思いますけれども、これについては見解もおありなんでしょうか。

○内谷邦彦議長 鈴木満成地域づくり推進課長。

○鈴木満成地域づくり推進課長 まず、SENNにつきましては、先ほども言いましたように、SENNに限らず、いろんな場所それぞれ特徴ありますので、そういったコーディネート役ということ、先ほど申し上げましたが、そういったところで、そういうつながる場というのを設定していきたいと考えております。

あと東京事務所との連携につきましては、まだまだこれからもっともっといろんな情報交換できる余地があると考えておりますので、そういったところで連携を密にしながら、例えば東京であるようなイベントについても一緒に声がけをさせていただいて、一緒にできないかとか、そういったところも含めて、これから考えてまいりたいと思います。

○内谷邦彦議長 7番、渡部正之議員。

○7番 渡部正之議員 ぜひそういった話合いも持ちながら、いい方向につながるよう進めていただきたいと思います。お願いいたします。

市長からは、これまでの市政運営、そして成果、評価、今後の市政の在り方という観点から、次期の市長選に向けたお話をお伺いさせていただきました。家族のいろいろな思いというか、そういったものも受けながらも、これらに対する思い、市のこれからよくなっていくことに対する、それは市長の思いであると思いますし、こういったものを受け止めさせていただいたと

ころであります。熟慮を重ねた上でのご決断であつたと受け止めたところであります。本当にこれまで公共施設などの更新というところでも、やはりその時期でなければできなかったことだと思いますし、市長のお言葉の中にもありましたけれども、次の世代に過大なハードの負担は残らないだろうというところで進めていただいたというところも本当の実績だったと思っております。

そして市長選については、候補者も出るかもしれないと。ただ、市長の現在の思いを訴えて、市長選に出馬するということで、本日の新聞報道でもあつたわけでありすけれども、6期目を目指すということがあつたわけでありす。今回の質問は、それを明確に市民の方にも伝えなくてはならないと感じましたし、そういった思いをお聞かせいただきたいなと思ったからでありました。

それで、7月の28日からタウンミーティングを予定されているようです。やはりこういった市民の方と市長が膝を突き合わせて、先ほど6地区それぞれで考えが違ったり、分野違えば、いろいろなお考えの方もおられると思いますので、そういった市民の方々の声をしっかりと改めて大切にさせていただいて、今後臨んでいただきたいなと思うところであります。

そういったことをお願いいたしまして、私の質問を終わります。以上でございます。ありがとうございました。

散 会

○内谷邦彦議長 本日は、これをもって散会いたします。再開は明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 4時08分 散会